

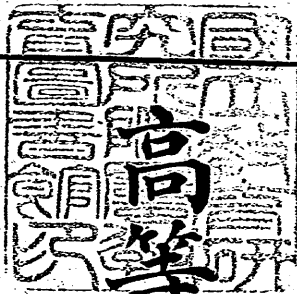
高等小學書方手本 第三學年用下甲種

K140.72  
2.11  
3下a

K140.72

2.11

3下a



高等小學書方手本

第三學年用下 甲種

文部省

朕俄ニ大喪ニ遭ヒ哀痛極リ罔シ但夕皇位一日モ  
曠クスヘカラス國政須臾モ廢スヘカラサルヲ  
以テ朕ハ茲ニ踐祚ノ式ヲ行ヘリ顧フニ先帝睿  
明ノ資ヲ以テ維新ノ運ニ膺リ萬機ノ政ヲ

親ラシ内治ヲ振刷シ外交ヲ伸張シ大憲ヲ  
制シテ祖訓ヲ昭ニシ典禮ヲ頒テ蒼生ヲ撫ス  
文教茲ニ敷キ武備爰ニ整ヒ庶績咸熙リ  
國威維揚ル其ノ盛徳鴻業萬民具ニ

仰キ列邦共ニ視ル寔ニ前古未タ曾テ  
有ラサル所ナリ朕今萬世一系ノ帝位ヲ  
踐ニ統治ノ大權ヲ繼承ス祖宗ノ宏謨ニ遵ヒ  
憲法ノ條章ニ由リ之レカ行使ヲ愆ルコト

無ク以テ先帝ノ遺業ヲ失墜セサラムコトヲ  
期ス有司須ラク先帝ニ盡シタル所ヲ以テ朕ニ  
事ヘ臣民亦和衷協同シテ忠誠ヲ致スヘシ  
爾等克ク朕カ意ヲ體シ朕カ事ヲ獎順セヨ

山川草木轉荒涼。  
十里風腥新戰場。

五

高甲十  
高甲下

征馬不前人不語。  
金州城外立斜陽。

六

物まはば唇をさし秋の風。

都枯れて猿の遠白し峰の月。

道也者不可須臾

九

離也可離非道也。

十

十一

源平の頃並びに元龜天心の間までは随分十  
二三歳にて母に訣れ父に暇乞して初陣など  
致し手柄切名を顯し候人物も有之候。是等は

皆稚心なき故なり。もし稚心あらば親の譬の  
下より一寸も離れ候事は相成中間敷まして  
手柄切名の立つべき由はこれ無き義なり。



峰巒起伏。廣野渺茫。

塵鋪櫛比。車馬絡繹。

山の花も子も梅子秋葉女郎をなど  
とりくにまてたし。あまり程たつろひ  
たるこらよけれ。あまり程しくたかに

作りなしたらは中に品なくならかしからず。  
躑躑野山に多く咲きたらは目をむる心地す。  
海棠といふの花めまて細やかに惹しき花なり。

探幽光琳。大雅應舉。

十七

音  
甲  
十

吳春師宣。芳崖雅邦。

十八

ものぶの矢並つころふふまのよた  
あられたばしる形須の藤原。

弱とめて袖うち拂ふかけもなし  
仕舞のあたりの雲の夕暮。

仁義禮智の四徳古今天下の人の心に皆生れ  
つきて備れること何を以てか知るや。四端あるを以て  
知れり。四端とは惻隱羞惡辭讓是非を云ふ。

熟思審處は智者のする事にして後悔なき道  
なり。兼ねて其の事あるべしと知りたる事は先づ  
其の事を行ふべき様を思ひ計りて極め置くべし。

被箭如帽目眦自裂  
六萬賊軍終挫折。

歸來河水笑洗刀  
血迸奔湍噴紅雪。

紫宸清涼塗籠藤。

壺朝餉間臺盤所。

棒程願つて針程叶ふ。旅は  
路づれ世は情一粒萬倍。

朝起に三文の徳あり。  
悪錢身に附かず。



掛けまくもかしこま志の大ききところ  
手代田と有るるめでたま名にも榮ぞ著き  
まへうしる静かなる水みどりたたく

めぐりにはま経たる松好ありてまぢ  
はるゆこのへにつらなり渡るこまの  
市橋仰ぐなり余りまがづる百のつがはは

雪如紈素煙如栢。

白扇倒懸東海天。

神武。綏靖。安寧。懿德。孝昭。孝安。  
孝靈。孝元。開化。崇神。垂仁。景行。  
成務。仲哀。應神。仁德。履中。反正。  
允恭。安康。雄略。清寧。顯宗。仁賢。

武烈。繼體。安閑。宣化。欽明。敏達。  
用明。崇峻。推古。舒明。皇極。孝德。  
齊明。天智。弘文。天武。持統。文武。  
元明。元正。聖武。孝謙。淳仁。稱德。

光仁桓武平城嵯峨淳和仁明  
文德清和陽成光孝宇多醍醐  
朱雀村上冷泉圓融花山一條  
三條後一條後朱雀後冷泉後

三條白河堀河鳥羽崇德近衛  
後白河二條六條高倉安德後  
鳥羽土御門順德仲恭後堀河  
四條後嵯峨後深草龜山後宇

多。伏見。後伏見。後二條。花園。後醍醐。後村。上。後龜山。後小松。稱光。後花園。後土御門。後柏原。後奈良。正親町。後陽成。後水尾。明。

正。後光明。後西院。靈元。東山。中御門。櫻町。桃園。後櫻町。後桃園。光格。仁孝。孝明。明治。

大正二年七月三日翻刻印刷  
大正二年七月十日翻刻發行

著作權所有



大正二年七月四日  
文部省檢査濟

發賣所

東京市日本橋區新地  
右衛門町十六番地  
株式會社

國定教科書共同販賣所

高等小學書  
第三學年用下冊種

定價金參錢

文部省  
高部  
秋季

著者  
發行所

東京市小石川區指之谷町百三十六番地

代表者

東京書籍株式會社

印刷所

東京市日本橋區通一丁目十九番地

印刷所

東京市京橋區新榮町五丁目七番地

印刷所

東京市大倉保五郎

印刷所

東京市大倉保五郎

